

令和6年度「大学生海外インターンシップ支援事業」に参加した学生の報告会

大学生海外インターンシップ支援事業として、県内企業の海外事業所でインターンシップを経験した学生が11月15日、直江県民文化部長に成果報告をするため長野県庁を訪問しました。

県庁を訪れたのは、(株)ユウワのベトナム事業所に参加した信州大学1年の深野さんです。同じく(株)ユウワのベトナム事業所に参加した信州大学3年の石山さんは、留学先のマレーシアからWeb参加していただきました。

また、受け入れていただいた(株)ユウワの日高様、宮寄様にもご同席いただきました。

本事業は、県内高等教育機関の魅力向上及び学生が海外に目を向け活躍の場を求める機運を醸成してグローバル人材の育成を図るため、産学官で連携して平成28年度から始めた事業です。コロナ禍の3年間は中断しましたが昨年度から再開し今年度で6回目となります。今年度は4名(信州大学生2名、公立諏訪東京理科大学学生1名、長野県立大学生1名)の学生が、2企業2事業所1カ国で9月にインターンシップを実施しました。

報告会に参加いただいた2名の学生がお世話になった(株)ユウワ以外に、(株)南信精機製作所のベトナム事業所でも2名の学生を受け入れていただきました。

参加した学生は、事前に作成した資料を基に県民文化部長に対してプレゼンテーションしました。日本とベトナムの文化の違いや、日本・ベトナムそれぞれの今後の国としての課題、自分の進むべき方向などについて、考えていることをしっかり表現していました。

受け入れていただいた(株)ユウワのご担当者からも、学生は現地で積極的に質問していたことや、将来の日本を担う人材になって欲しいこと、今後も本海外インターンシップ事業に協力していきたい旨のお話をいただきました。

直江部長からベトナム戦争の影響についてどう感じたか質問され、ホーチミンという文字を意外と見なかったことや、戦争の荒廃から復興していこうという勢いを感じたなどと回答しました。



最後に直江部長から「今回学んだことを人生に活かしていただきたい。今後、日本は変わっていく。いつまでも成長局面でいられるわけではない。その中である程度豊かさを保って社会を持続させていく役割を担っていただくのは若者。日本の未来と一緒に考えていって欲しい。」と学生に話し、企業の方も一緒に記念撮影をして報告会を終了しました。